

Frank

Talamantesカリフォルニア大学教授(アメリカ)の  
ポイントメント・プログラム招請について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学国際交流センター 公開日: 2009-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 針谷, 敏夫 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/4751">http://hdl.handle.net/10291/4751</a>

## K Frank Talamantes カリフォルニア大学教授(アメリカ) のアポイントメント・プログラム招請について

農学部助教授 針谷敏夫

明治大学国際交流基金事業の一環として、アメリカ合衆国、カリフォルニア大学教授フランク・タラマンテス(Frank Talamantes)博士を1992年度のアポイントメントプログラムによる客員教授として招くことができ、1992年12月10日より12月22日まで滞在した。タラマンテス博士はカリフォルニア大学、サンタクルツ校の生物学系の教授として、内分泌学、特に妊娠中胎盤から分泌されるホルモンである胎盤性ラクトゲンの分泌機序及びその生理作用について、マウスを用いて生理学的アプローチから分子生物学的手法に至るまで、広範かつ精細な研究を行なっている。また構造的に非常に相同性の高い同族ホルモンとして胎盤性ラクトゲンと同じファミリーとされている、プロラクチンや成長ホルモンについても幅広い研究を行なっている。

タラマンテス教授はまた、自身がメキシコ系のアメリカ人であるため、アメリカ国内における少数民族、特にヒスパニック系の学生に対して援助を惜しまず、自らも彼らの模範となるよう努力し、“Outstanding Leadership and Contributions to Education in the Hispanic Community”という賞を高等教育協会より受賞している。同様に、日本人に対しても親近感を持っているようで、我々にも非常に温かい態度で接してくれ、研究上も的確なアドバイスを与えてくれ、人間的にも非常に優れた研究者である。

本学における講演は、生田キャンパス中央校舎の完成したばかりのスタジオ教室において、2回行なわれた。博士のこれまでの中心的な研究である、マウス胎盤性ラクトゲンのアミノ酸及び遺伝子の構造解析及びその分泌調節機構の全般的な知見の紹介と、最近進められている成長ホルモンのレセプターと結合蛋白質についての最新の研究成果について、教員と院生、学部学生、

および外部からの聴講者を対象に行なわれた。その日付と講演タイトルは以下の通りである。

第1回 12月14日

Mouse placental lactogens : structure and regulation of secretion  
(マウス胎盤性ラクトゲン：構造と分泌調節)

第2回 12月17日

The regulation of expression of the mouse growth hormone  
receptor and binding protein during pregnancy

(マウス成長ホルモンレセプターと結合たんぱく質の妊娠期における発現調節)

2回の講演会では、学外からも上記関係の研究者をはじめ、多くの人々の来場を得、第1回目では、妊娠期の生体内の内分泌環境全般、および各ホルモンの構造についての入門的な事柄から、胎盤性ラクトゲンの分泌調節機構についての先端の研究成果に至るまでの内容を、博士もゆっくりと話すよう心掛けてくれ、専門家はもちろん、専門外や学生にとってもわかりやすいものであったと思う。2回目の講演においては、胎盤性ラクトゲンの作用が似ている成長ホルモンについて、そのレセプターと結合たんぱくの違い、およびその意義について教授の推察も交え最新の知見が示された。また講演後も熱心な学生を中心に活発な質疑の行なわれたことは何よりであった。特に、1回目の講演後は、農学部の援助により、懇親パーティを開くことができ、学部長および学外者も交え、研究のみならず、さまざまな情報交換が行なわれ、講演会では静かであった学生も驚くほど積極的に話しかけ、本プログラムの意図する国際交流が充分果たされたことと思う。学生諸君は、特に語学力の重要性をみぢかに知る機会をもてたことが1番の収穫であったようだ。

最後に、タラマンテス博士の来校に感謝することはもちろんであるが、同時に色々ご助力をいただいた国際交流委員の先生方ならびに国際交流センターのスタッフその他関係者各位に心からお礼申し上げます。